

VLBI 懇談会 2018 年度 総会 議事録

※敬称略

日時：2018 年 12 月 1 日 17:40-18:20

場所：熊本大学

司会：VLBI 懇談会事務局長 小川

議題

1. 活動報告（小川）

2. 2018 年度会計報告及び会計監査報告（小川、中井）

会計監査報告(中井)：2018 年度の会費収入増は、府立大による会費納付呼びかけの成果。
会計に関して問題がないことを報告。

3. 2019 年度活動方針、及び予算案（小川）

4. 国立天文台研究交流委員会報告（米倉）

12 万円を 7 名への宿泊費補助として支給。

5. 2019 年度の国立天文台研究集会開催補助への申請について（米倉）

研究集会開催補助の申請について合意。以下、質疑応答。

半田：申請出すということで V コンの存在を天文台にアピールするという意味合いはあるのか。

→ある。

秦：100 万申請して 12 万円となったが、満額が通ることはあるのか。

→米倉：分野を代表する研究集会 6 のうち、最低査定。支給額 0 になるところ、少額でも継続すべきという意見で 12 万円支給に。審査項目がいくつかあり、来年度の申請時にそれらをクリアすることで満額に近づけられるだろう。

6. その他

6.1 役員数の削減

論点：会則第 6 条に役員について

「総会もしくは、郵便または電子メールなどによる会員の投票で、会長、事務局長、並びに若干名の幹事を選ぶ」→現在の役員：19 名

これは若干名とはほど遠く、かつ会員数が 139 名(2018 年 3 月現在)の本会に対してあまりに多いのでは。

以下、議論内容。

川口：複数の役員がいたからと言って議論が紛糾して滞ったことはない。

米倉：過去に徂徠さんが同じく提案したが、議論の末、現状維持とした。

小林：なぜ機関代表という枠を設けたのか立ち返るべき。望遠鏡を持っている機関が現状や今後の観測方針等を議論する為の機関代表。今の役員会がその役割を果たしているのか議論すべき。

以上の意見を考慮した上で、今後の役員会で議論する。

6.2 休日開催の是正

論点：近年のシンポジウムが休日に開催されている。平日に多忙ゆえという現状も理解できるが今一度議論すべきでは。

以下、議論。

米倉：多くの大学の授業も終わる 24-28 日周辺で固定していたが、近年クリスマスが休日と被っていた+本年は他の研究会と被った為急遽開催日変更し休日になってしまった。休日で固定しているわけではない。

本当に 12 月に開催すべきなのか？任意団体なので会計年度の境目は自由であるはず。

川口：12 月という時期は M2 の研究活動のまとめという意味もあると思う。

→1 月の方が教員としてはありがたいし、M2 のためにも良いと思われる。

→1/4 から授業が始まる大学がある。

→夏休みが教員としてはありがたいがそれでは学生にとって発表する内容がまとまっていない可能性が高い。

以上の意見を考慮した上で、今後の役員会で議論する。

6.3 VLBI 研究基盤の保全

論点：野辺山 45m 電波望遠鏡の共同利用の終了や JCMT からの撤退など、電波天文研究を脅かしかねないニュースが立て続けに流れている。私達 VLBI 懇談会員が用いている VLBI の望遠鏡も、私達が声を挙げなければ、私達の予期しない形で廃止・終了してしまうのではないか。そこで、役員会は今般の電波天文研究が置かれている状況について議論し、必要であれば、VLBI 研究基盤を保全するよう求める声明を出す、などの行動を今年度中に起こすのがよいのではないか。

以下、意見。

- ・持っているアンテナを使って良い成果を上げなければならぬ。
- ・その成果をネタに自分で資金を獲得しなければならない。また、声明を出したら、声明を出す相手だけでなく、自身の周囲(特に自身のコミュニティ内)にも声明を出したことをアピールすべき。

以上の意見を考慮した上で、声明提出のための議論・準備を進める。